

みんなの環境

第 23 号 2009 年 9 月 28 日

編集/発行 あつぎ環境市民の会

http://www.geocities.jp/atsugi_kankyo/

持続可能な循環型社会をめざして - 2

代表 狩野光子

ほんとの循環型社会か

ごみ問題に取り組んで 15 年ほど経ちました。分かったことは、わが国は法令順守のもとに地方自治体が真摯に循環型社会を進めているという事です。しかし骨格となるその法律が本当に持続可能なものになっているのか？不安が募る一方です。

廃棄物の処理は昭和 29 年清掃法により、汚物の処理として実施されました。

経済成長に伴う廃棄物の量的増大と質的变化を受け、昭和 45 年廃棄物処理法を制定し全面改定。その後六価クロム問題を契機として、昭和 51 年には産業廃棄物の処理に関する事業者の責務に関する強化を中心に改定、平成 3 年には廃棄物量の増大に最終処分場の確保が困難、不法投棄の問題が多発し、廃棄物処理体系の抜本的見直しと強化がされています。

そして本格的な循環型社会を目指そうと平成 13 年には循環型白書が発行され、国家事業として大きな役割を占めるようになりました。しかし、大量生産大量消費の中での循環は、多額の補助金を使用して大型プラントを建設してしまうと、これを維持するために、またごみが必要となり、市民が神経を尖らせて分別しても、資源の枯渇と温暖化を促進しているのではないかと希望が持てなくなってしまう。

どんな生活を目指したら、次世代に対しての責任が果たせるのか？市民なりに地球システムから探ってみました。

自然システムに沿って

地球のシステムは単純で深遠です。植物は太陽からエネルギーを受け CO₂ を織り込みながら酸素を排出し、大地からはミネラルと水分を吸収して成長し、実をみのらせて子孫を残す。動物はこれを食べることで間接的に太陽エネルギーを得て命をつなぐ。これを「生食連鎖」と呼びます。動物は体内に何十兆という微生物を宿し、食した植物を微生物など介して太陽エネルギーを間接的に体内へ供給します。微生物の死骸や老廃物が糞として体外へ排出された時、土の中の小動物、微生物が、待ってましたとばかりに食らいつく。これらの糞がミネラルとなって大地に還ります。これを「腐食連鎖」と言います。つまり、生食連鎖と腐食連鎖の循環で地球はごみを出さないというシステムになっているのです。

地球は 46 億年かけてこのシステムを作り上げてきた。人間が誕生したのは僅か 500 万年前。地球の歴史を 1m とすると、人間の歴史はわずか 3mm にすぎない。江戸時代は見事に自然のシステムに沿っていて、ヨーロッパでは日本の江戸時代を、お手本にしてきたというお話を聞いたことがあります。

先人の知恵を見直し、足元からもう一度、生活スタイルを見直したいと思うこの頃です。

次号へ続く

～ 私たちの活動～

親子で参加 エコ体験・手作り石けん作り

厚木市愛甲公民館・文化振興委員会主催の「エコ体験・手作り石けんづくり」が6月7日(日)、地区内小・中学生及び地区内在住の方(小学生は親と申し込む)を対象にエコ体験と石けん作りを行いました。講師として青砥航次、狩野光子、建部美枝子が応援しました

参加者は当初20名の募集予定でしたが、30名の参加でした。また公民館よりのお手伝いとして文化振興委員会の委員の方8名の協力がありました。会場は、講話を同集会室、石けん作りは同駐車場で行いました。

9時より自作の絵を見ながらの環境のお話、水に関する講話を約30分位3名で致しました。自作の絵があったりしましたので、話を注意深く聞き入り、後半の石けん作りの盛り上げにとても良い効果がありました。

石けん作りは外に出て実際に説明をしながらの体験学習でした。子供達は水の中にカセイソーダを入れる時の臭い、廃油を入れる時などみなさん注意深く真剣に缶をのぞき込み次第に固まっていく様子を体験出来ました。大人が大勢いたのと、人数がよかったので、まずまずの出来でした。また思ったより簡単にできるんですねと感心していました。

親子でのコミュニケーションが出来、家庭に帰ってこの話が出来ますと喜んでいました。

エコロジー体験研修・石けん作り教室



水の環境について熱心に聞く親子

水のかきまぜ、少しずつ固まっていく様子に親子での会話が弾み、かき混ぜる手も交代で楽しそうでした。

その後、和室に移動し、くらしと水の環境について考える学習会を開催しました。今回は模造紙に大きく水の循環/水道水が安心して飲めるでしょうか?/川が汚される/昔の水がきれいだったのは/水質汚染について/食用油の品質についてなどを掲示、お話を交えて環境を思いやる心や習慣が自然の回復をもたらせる意義について語りました。

終了後のアンケートには、水を見直す機会を与えた/実践する事で体験出来た/水について考えるようになった/親子での会話が aumente /地球の汚れについて考える様になった、など回答がありました。

毎日の生活の中で水の大切さと合成洗剤の使用量が少しでも減り、石けん作りを通しての内発的な動機になっていければと考えます。

(建部美枝子)

生物季節を記録しよう 9月～10月の自然

急に秋らしくなりました。9月5日にはヒガンバナの咲く寸前まで伸びた蕾を秦野で見ました。9日には清川村で咲いていました。セミの声も10日を過ぎると突然寂しくなりました。いつまで聞こえるか毎日気を付けて見ませんか。ツバメは6日に見たのが最後かも知れません。もっともこれは10月上旬ころまで南に帰る小さな群が上空を飛ぶのが見られるはずです。8日、我が家に珍しいお客さんが来ました。ウスイロコノマチョウという南の方に生息し温暖化とともに北上していると言われる蝶です。この日、本州の東を台風12号が通過していたので巻き込まれて運ばれてきたのかも知れません。これからキンモクセイの香り、セイタカアワダチソウの黄色い花、野菊のなかまなどが咲き出します。ジョウビタキやツグミなど冬鳥の来訪。寂しさを増すコオロギの声がいつまで聞こえるかも気を付けてみたいものです。

あなたの見聞きしたものを教えてください。

見たり聞いたりしたもの。 場所(市内だったら地名 丁目くらいまで)、お名前・連絡先(場合によっては確認のためお訊ねする事があるかも知れません。発表する時、個人名は匿名にします)ここに掲載するデータは、紙面の都合で取捨選択させて頂くことはお許しください。情報はFAX(046-222-2356)またはメール kohji.aoto@nifty.com で青砥航次へ。

街の自然

北上しています ナガサキアゲハ

日本に生息する黒いアゲハチョウの仲間、尾状突起がないのはこの蝶だけです。前翅長60-80mmほどで、日本産のチョウでは最大級の種類です。種類内ではメスがオスよりも大きく、後翅の中央部に白の細長い斑点が数個外向きに並び、その外縁に赤の輪状の紋が並びます。南方系の蝶で以前よりも北の地域でも見られるのは、地球温暖化の影響でしょうか。各地の平均気温の上昇と関係があるかもしれないと云われています。年ごとに生息域を北に広げています。どこまで行くにか興味しんしんです。厚木周辺でも数年前から見られるようになりました。



厚木市内でも観察されたナガサキアゲハ (09-9-6)

環境省 自然環境局生物多様性センターの『いきものみつけ』調査でも取り上げられ、重要な指標生物になっています。見つけたら、ぜひ下記 までレポートしてください。

http://www.mikke.go.jp/discovery/detail/nagasaki_ageha

(写真と文：長岡 恂)

この機関紙にみなさんの環境への思いや情報を載せましょう。原稿は随時受け付けています

“2009 あつぎ環境フェア”

人気のソーラーカフェを出展！

11月1日(日) 厚木中央公園

今秋も昨年に引き続き“あつぎ環境フェア”が11月初日(日)に中央公園にて開催されますが、われ等が“あつぎ環境市民の会”もこの環境フェアに積極参加し、前年に引き続いて「ソーラーカフェ」ブースを出展することになりました。当ブースでは各種のソーラークッカー(太陽熱調理器)を展示・実演し、実演結果としてのお湯を用いた湯茶サービスを行います。これ等、日ごろの活動を発表し、一連の活動を通して地球環境対応としてのクリーンエネルギー活用の大切さを訴えていきます。

皆さんどうぞ奮ってご参加ください。なお、当日のスタッフ若干名を募集しています。

日 時：平成21年11月1日(日) 午前10時～午後3時

(雨天の場合はテント内での一部機種展示のみ)

ところ：厚木中央公園(小田急線本厚木駅より徒歩7分)

展示・実演ソーラークッカー：カルピカ/キラピカ/大型太陽自動追尾機/

大型太陽マニュアル追尾機/サンオープン

その他の展示等：ソーラークッカー使用の効用/あつぎ環境市民の会の活動等

パネル展示。小さなソーラークッカーの製作実習も行います。

問い合わせ・連絡先：狩野光子(TEL/FAX：046-224-5010)

みんなの環境 第23号 2009年9月28日発行

編集・発行 あつぎ環境市民の会 代表 狩野光子

電話/FAX 046-224-5010 e-mail: mitsuko-karino@ayu.ne.jp

事務局 〒243-0817 厚木市王子2-14-3 山中延明 方

電話/FAX 046-224-9693 e-mail: ANA40480@nifty.com

郵便振替口座 00200-7-132779 (年会費 A:2000円 B:1000円)

(C)あつぎ環境市民の会 2009